

精神保健福祉センターにおける自殺対策の取組から

平成 24 年 1 月 26 日

日本の自殺対策の流れ

- ・ 自死遺族支援
- ・ ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ

精神保健分野の課題(特に中高年男性)

- ・ こころのバリア(うつ病への偏見、精神科受診への抵抗感等)

精神保健福祉センターの取組の具体例

- 1) 睡眠キャンペーン「お父さん、眠れてる？」
うつ病の気づき つながりづくり
- 2) 地域における人材育成(ゲートキーパー養成)
- 3) 受け皿整備：地域医療連携等

自殺の本質「孤立」

- ・ 地域のつながり、職場のつながり、家族のつながりの希薄化
「無縁社会」、「地縁、社縁、血縁の崩壊」
- ・ 孤立させないための「つながりづくり」が重要
- ・ そのための人材養成(ゲートキーパー研修)
東日本大震災をへて、日本人は「つながり(絆)づくり」の大切さを強く再認識。社会貢献への意識は高まっているものの、具体的に「何ができるか、何をしてよいか」についての戸惑いあり。

ゲートキーパーの意義

- ・ 「つながりづくり」の推進役
- ・ 「何をどうすればよいのか」を具体的に理解・習得
まずは「眠れてますか？」の気遣いから

大綱の意義(当初)

- 1) 国民へのメッセージ 「自殺は追い込まれた末の死」
「自殺は防ぐことができる」
- 2) 自殺対策の包括的指針

大綱改正にあたって

1)日本人へのメッセージ

東日本大震災をへて「つながり(絆)づくり」の重要性が強く意識されるようになったが、「つながりづくり」は自殺を防ぐキーワードそのものである。現在、日本人が強く意識していることを、ひとりひとりが実践することが、自殺から命を守ることにつながるという認識が広まることで、**自殺対策の国民運動化**にもつながる。

日本人のところに染み込むメッセージの発信
(社会的包摂、ソーシャルキャピタル)

2)自殺対策の具体的指針、特にハイリスクアプローチの深化 自殺対策の課題の明確化

課題例：中高年男性の孤立(特に失業、離婚)

日本人のつながり(絆)づくりのために

官 官 (職域保健 地域保健、教育 地域保健・・・)
官 民
民 民

例：セレス・コミュニティ・プロジェクト(カリフォルニア)

精神保健福祉センターの今後の取組と課題

- ・ゲートキーパー育成と普及啓発、受け皿整備
地域における自殺予防ネットワーク(セーフティネット)の構築
- ・課題：関係機関の横のつながりづくりの困難性

その他

- ・自死遺族支援について
- ・日本人の意識変化：教育から